めじろむつみクラブ（MMC）会報

［第42号］　2021年（令和3年）7月1日発行

特定非営利活動法人（ＮＰＯ）
めじろむつみクラブ（ＭＭＣ）事務局
住所：八王子市めじろ台3-35-1
tel：080-1038-6875
http://www.hachioji-mmc.com/

【ご挨拶】

昨年度はコロナ禍の煽りを受けて講演会、コンサート、寄席など文化活動面はすべて中止。庭木の剪定など生活支援事業は計画以上の収入実績をあげることが出来、財務基盤の安定を確保しております。住民主体による介護予防・生活支援サービス事業に関わる市の補助金を有効に活用、本事業にも取り組んでおります。

理事長　坂元芳彦

【事業報告と会費納入のお願い】

総会終了の報告：『NPO法人めじろむつみクラブ』2020年度総会は2021年５月25日(火)、サロンめじろ台を会場に、コロナ感染防止対策から体温測定実施３密回避の上で開催しました。総会においては、第1号議案から第３号議案まで、すべての議案が満場一致で承認されました。

生活支援事業：2020年度はコロナ感染拡大真っただ中で活動がスタートしました。しかし、年度末フタを開けてみると生活支援の総件数は計画を上回る453件、総収入も予定を上回る数字でした。昨年度の特徴として新規依頼の増加があげられます。これは「～さんから聞いた」、「～で剪定しているのを見て」など口コミ的な要素からの広がりと考えます。さらに、二世代に亘っての依頼も数件みられます。世代をまたぎ次ぐ依頼は今後も増加が予想されます。また、八王子市の「住民主体による介護予防・生活支援サービス事業」の補助金を受けて、見守りや近隣清掃などの生活支援も実施しました。

地域交流事業：講座開設事業として、講演会（「歌舞伎のお話」）、恒例のクリスマスコンサート、中央大学落語研究会の寄席など計画していたすべてが中止を余儀なくされました。そんな状況下、地元シニアクラブや他団体の会員を対象に、少人数限定でスマホの基本的な活用法などの講習会を開催しました。

会費納入のお願い：常日頃、ご指導ご鞭撻を賜り、お礼申し上げます。さて、2021年度の年会費1,200円につきましては別添振込用紙にて、7月15日までにお振込みいただくようお願い申し上げます。

【ワイドに活動】

庭木剪定作業については活動エリアが広がり、規模も拡大傾向にあります。また、各作業者の技術も徐々に向上しています。今年の6月には八王子の東南方面で約300坪の庭園の剪定作業を受託し、ベテラン作業員5名が２日間従事し作業を完了させました。剪定した樹木は約30本、廃棄場まで車を5回往復させる大仕事でした。

電話 080-1038-6875

（受付 月～土 9:00～17:00 日曜祝祭日休み）

メール mejiro.mutsumiclub@gmail.com

ホームページ http://www.hachioji-mmc.com

【広報】

日経新聞がスマホ教室を紹介！

日本経済新聞夕刊6月10日号、第8面『セカンドステージ』のコーナーにMMCのスマホ教室を紹介する記事が掲載されました。

『セカンドステージ』とは、様々な分野で活躍するシニアたちを取材に基づいて紹介するコーナーです。「元気な高齢者がちょっと困っている高齢者を助ける」を合言葉に生活支援を行うMMCの活動が記事のテーマにピッタリと、記者の方がMMC事務所まで話を聴きに来てくれました。

セカンドステージ

シニアと地域をマッチング

家事お任せ、NPOなど仲介

スマートフォンの操作方法から植木の剪定（せんてい）まで、ちょっとした家事なら何でもお任せを――。日常の困りごとを解消してもらおうと、シニア世代が地域住民を支援する取り組みが広がっている。双方を結びつけるのは、ボランティア団体や自治体。シニアが持つ豊富な経験を地域のサポートにつなげる狙いだ。

「きょうは『タップ』という言葉を覚えてください」。5月、東京都八王子市の住宅の一室でスマホ教室が開催された。集まったのは近くに住む60～80代の高齢者4人。時に戸惑いの表情を見せながらもスマホを手に熱心に聞き入った。

講師を務めたのは同市の山川正泰さん（66）だ。この日は、スマホのホーム画面への戻り方や充電のタイミングといった基本的なことから、対話アプリ「LINE」の使い方といった少し高度な内容まで、講義は約1時間に及んだ。

受講者の一人、北沢昇さん（78）は「ささいなことについては、携帯ショップのスタッフより、同世代の人の方が気軽に質問しやすい。近くに詳しい人がいてくれて、本当に助かっている」と喜ぶ。

こうした「授業」が実現した背景に、同市のNPO法人「めじろむつみクラブ」の存在がある。メンバーは全員が60歳以上。体力自慢のシニアと、日常家事などの手助けを求める住民をマッチングしている。障子の張り替えや電球の交換まで、活動の範囲は幅広い。

山川さんもメンバーで、2015年ごろから活動。フリーライターとして毎日のように仕事でスマホやパソコンを使っており、基本操作などに熟知している。昨春にビデオ会議サービス「Zoom（ズーム）」の使い方を地域の高齢者に教えて以降、月4回ほど機器の扱い方を講義する。自身にとっても「住民との交流が深まるうえ、地域のこともよく知ることができる絶好の機会」と話す。

趣味が高じて技術を身につけたメンバーもいる。斉藤英雄さん（77）は約7年前から植木の剪定を始め、腕を磨いてきた。知人の紹介で19年10月に入会。作業の合間に交わす「気さくな会話も楽しみにしている」といい、網戸や障子の張り替え、包丁研ぎなどでの出番も呼び掛けている。

クラブの設立は2002年。特にここ3～4年は住民からの依頼が相次いでいるという。ニーズがある介護支援も新たに始めた。坂元芳彦理事長は「退職後も力をあり余らせているメンバーばかり。元気なシニアが地域住民を支える団体を目指したい」と意気込む。

こうした取り組みを後押しする自治体もある。東京都杉並区はシニアに積極的に地域活動に乗り出してもらおうと、「ポイント制」を取り入れている。

60歳以上の区民を対象に、街の清掃や花壇の手入れなど区が認定する地域貢献活動に参加すると、5ヶ月分のシールを配布。25ヶたまれば、区内の商店街などで使える千円分の商品券と交換できる仕組みだ。

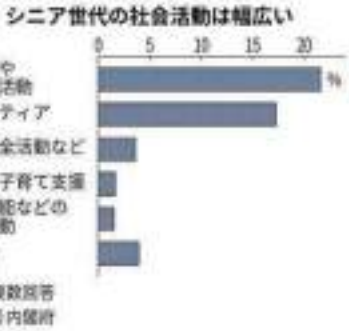
多くの住民が参加するのが町内会の「松庵町会防犯パトロール隊」。約20人のパトロール隊が月4回、児童の下校時間や休日の前日に町内を巡回している。「パトロール中」と記されたベストを着用し、通行人へ声を掛けたり児童の下校を見守ったりして、地域の安全を守る。

以前は見回り活動がなく、住民の要望が多かったという。パトロール隊長の和代男性は「子どもの見守りなど、地域活動に貢献したいと考えているシニアは少なくない。ポイント制はモチベーション。より多くの人に参加してほしい」と呼び掛ける。

地域が求めるニーズは増えており、シニアが活躍する場は広がっている。同区の担当者は「趣味やスキルの延長で構わないので、関心のある分野を見つけて参加してほしい」（高齢者施策課）と話している。

（中村信平）

地域住民にスマートフォンの操作を教える山川正泰さん（奥）



開催日は毎月

第１火曜日・第１土曜日13時～
第３木曜日・第４日曜日10時～

会場

MMC事務所（めじろ台3-35-1）

参加費

500円(2時間)

MMC スマホ教室

申込み・問合せ　MMC事務局

080-1038-6875